

# 第三の男 (The Third Man)

観賞日 2025年2月3日 上映時間 105分

## 【概要】

制作 1949年 イギリス

監督 キャロル・リード

脚本 グレアム・グリーン

音楽 アントン・カラス

撮影 ロバート・クラスカー

出演 ジョゼフ・コットン (ホリー・マーチンス)、オーソン・ウェルス (ハリー・ライム)  
アリダ・ヴァリ (アンナ・シュミット)、トレヴァー・ハワード (キャロウェイ少佐)



## 【あらすじ】

戦後間もない頃のウィーン。アメリカ人の作家ホリー・マーチンスが当地にやってくる。ホリーは学生時代からの親友ハリー・ライムに招かれていた。しかし、ホリーがハリーを訪ねると、ハリーは自動車事故で亡くなったと告げられる。連合国警察のキャロウェイ少佐によれば、ハリーは闇市を取り仕切っていた悪人であったとのこと。その発言を信じられないホリーは帰国の予定を変更して事件の究明を行う。すると、クルツと名乗る男から情報がもたらされる。それによれば、ハリーの死の現場にいたのは、クルツ、ポベスコ、そして第三の男であったことが判明する。その後、その情報をもたらし門衛が殺される。やがて、警察からハリーが粗悪なペニシリンを横流しして不当な利益をえていたことを知らされる。その晩、ホリーは偶然ハリーを見かけ後を追う。観覧車内でのホリーとハリーとの会談。ホリーはハリーの変貌ぶりを目の当たりにして、ある決意を固める。

戦後混乱期のウィーンを舞台にしたサスペンス映画の傑作。撮影テクニク、音楽など、映画史に残る有名シーンが満載。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●第2次世界大戦後のウィーン

第2次世界大戦後、オーストリアはドイツ同様、国土を米英仏ソの4か国に分割され共同管理下に置かれる。首都ウィーンはベルリン同様、都市自体が4か国によって分割される。その後、東西冷戦の長期化のため、オーストリアの主権が回復されるのは1955年に締結されたオーストリア国家条約まで待たされる。また、主権回復とともに永世中立が宣言された（現在、ユーロには加盟しているが、NATOには非加盟）

#### ●評価

- ・「史上最高のイギリス映画ベスト100（2011年）：第2位
- ・「映画人が選ぶオールタイムベスト100（2009年・外国映画編）：第4位

#### ●受賞（1949年第3回カンヌ国際映画祭）

グランプリ：キャロル・リード

### ■見どころ

#### ●画期的な撮影

モノクロで光と影を巧みに駆使したカメラワーク

#### ●ギター演奏

アントン・カラスによるオーストリアの民族楽器ギターの演奏

#### ●下水道内での逃亡追跡シーン

#### ●ラストの遠近法を利用した名シーン